

神居まちづくり推進協議会 会議録 令和5年度第3回

会議概要	
日時	令和6年1月18日(木曜日)午後6時00分から午後7時20分まで
場所	神居公民館大会議室
出席者	委員8名（正副会長以外は五十音順） 佐々木会長，小平副会長，青木委員，赤間委員，浅野委員，荒木関委員，大河委員，大高委員 （欠席者 永田委員，楡委員，松浦委員，美浪委員，三本委員，諸澤委員） 市民生活部 林部長 地域活動推進課 小松主幹，谷口課長補佐 事務局 神居支所 小松支所長，成田副支所長，伊藤市民係主査 神居公民館 西村館長
会議の公開 ・非公開	公開
傍聴者の数	0名
会議資料	次第
	資料1 組織の在り方に関するご意見の聞き取りについて
	資料2 神居消防団活性化事業 実施報告書
	資料3 異世代交流「七夕まつり」 実施報告書・収支決算書
	資料4 神居まちづくり推進プログラムの見直しに係る調査票

## 1 開会

事務局から，欠席者の報告，配付資料の確認を行った。

## 2 意見交換

事務局から，地域まちづくり体制の見直しについて，資料1に基づき説明した後，意見交換を行った。

地域まちづくり組織の在り方に関する意見がある場合は，2月22日(木)までに提出票を提出することとした。

各委員等の主な発言概要は，次のとおり。

(委員) まちづくり推進協議会(以下「まち協」という。)には市民委員会だけでも6地区が集まっており、組織を官から民へ移行するということが、経費や事業の目的などに不安がある。全市的に意見を聞いているとのことだが、どのような意見が出ているのか。組織の移行を実施することはなかなか難しいと感じている。

(市民生活部長) 組織を変えると、負担や心配に思うこともあると思う。まち協で意見を伺うのはこちらで2箇所目であり、全市的にはこれから実施するところである。現在のまち協は市の懇談会という立場であり、活動の自由度が少ない。神居地域であれば、今年実施した子供中心のイベントをもっと実施するなど、地域がやりたいことを自由に活動してほしい。経費については、現在は市の補助金で運営しているが、地域運営組織に移行後も支援する予定である。全国的には、中核市の8割に地域運営組織があり、旭川市のまち協も地域運営組織に近づけていきたいと考えている。本日意見を伺って、組織の移行を決めるということではなく、今後も意見交換を継続したい。

(会長) 旭川市まちづくり基本条例にあるが、まちづくりは市民主体、地域主体であり、地域住民がまちづくりの主役である。地域にはそれぞれ課題や特性がある。地域運営組織に移行し、個人ではなく団体に組織されることで会議などに代理で出席できるようになれば、担い手の裾野が広がると思う。行政主導ではなく地域主体で実施できるように、情報発信や経費の支援などをお願いしたい。

(市民生活部長) 市の職員もまち協のメンバーの一員として、一緒に活動するイメージであり、まちづくり基本条例と同時期に策定した「地域自治推進ビジョン」にも市民主体、地域主体のまちづくりについてうたっている。

(委員) 西神居地区は地域的に離れており、物理的にも心情的にも、神居の中心部と同調することは難しい。西神居地区は市民委員会を解散する予定であり、地域活動を自由に実施する以前の問題として、高齢化や過疎化など地域をどうするのか、市のビジョンとしてどう考えるのか。移住・定住者を増やすなど何をすべきかという論議が必要ではないか。一律に地域組織へ移行したいのだろうが、やりたい地域はやり、できない地域はふるい落とすような手法はいかがなものか。

(市民生活部長) 過疎対策や移住・定住などは行政課題であるが、地域として課題や現状を把握しておく必要があり、地域組織が重要となる。市の懇談会は、行政が地域の課題を把握することはできるが、課題の解決に向けて地域をまとめる組織ではない。現在、消防団が全まち協に加入して、防災など安全安心な暮らしに向けた取組などを実施しているが、組織を移行することで、他にも幅広く組織に加入してもらったり、人数を増やしたり、テーマによって参加するなどの自由度が増す。今後は、目指している地域運営組織の形をいくつか提示することにより、地域によって運営や活動をしやすい形を選べるようにしたいと考えている。

(委員) これまでまち協が進めてきた活動は、一定の成果を収めていると思う。まち協の将来像にもそれなりの定義があるだろうが、地域としては大きな負担増になる。現状でも町内会役員の担い手が不足しており、一人で二役も三役も兼ねて目いっぱい活動していることを考えると、新しい組織での運営は無理だと思う。自由な発想で活動できる組織になるというが、自由ほど難しいものはない。予算など一定の条件や制限がある。これから先は、人口減が明白であり、限界町内会などという話題も聞かれる。地域活動組織にどのような問題点があるか整理をし、ここで一度立ち止まって考える必要があるのではないか。

(市民生活部長) まち協としての成果はかなりあった。地域での横のつながりができたり、事業数も年を追うごとに増加した。時代とともに市民委員会で地域をまとめられる範囲は変わってきており、現在の町内会加入率は50%台である。地域住民の半分は地縁団体と無関係な状態にあるが、様々な団体が連携することで幅広く取り入れるための組織がまち協である。地域組織へ移行することで地域の負担が増えることになるので、無理に移行を進めるつもりはない。事務局に市の職員が残ったり、経費についても現在の補助金のような仕組みは必要になると考えている。

### 3 協議事項

#### (1) 神居地域のまちづくりの検討と推進について

##### ア 今年度の取組事業の進捗状況について

令和5年度の取組事業の進捗状況について、「神居消防団活性化事業」、「異世代交流七夕まつり」、「逃げ遅れゼロの地域づくりプロジェクト事業」及び「神居地域支え合い事業」の各事業の実行委員から説明（欠席委員の分については、事務局が代理説明）があった。

各委員等の主な発言概要は、次のとおり。

(委員) 「異世代交流七夕まつり」では、翌日が七夕だったので、七夕飾りを支所に設置し、地域の方にも短冊に願い事を書いてもらうなど楽しんでもらうことができた。

また、チラシは、神居中央地区、神居東地区、忠和地区の各市民委員会の町内会回覧と神居地区の小・中学校の終業式に配付をお願いした。

(会長) 当日は雨降りがかむい中央公園を使用できなかったが、神居小体育館で大いに楽しんでいた。良い成果を収めたと思う。

(事務局) 各事業の進捗状況については、市のホームページで1月22日から公開予定である。

## イ 神居まちづくり推進プログラムの改訂について

事務局から、第1回会議で配付した「神居まちづくり推進プログラム」及び「市への要望・地域からの提案」に対する本市の考え方についての内容を確認し、地域として取り組むことになじまない事項、既に解決方法がある事項、実現の可能性が極めて少ない事項については削除し、新たに市への要望事項など追加したい事項があれば追記するよう説明があった。「調査票」に意見を記入し、2月22日(木)までに提出することとなった。

集約した修正案は、次回会議で協議することで了承を得た。

(会長) プログラムに掲載されると、掲載内容が整理されない傾向にある。この機会に、見直しできるように、意見の提出をお願いする。

### (2) その他

次回開催は、3月22日(金)18時からとすることを決定した。

## 3 閉会